

---

# とある学園の日常生活

セラフィム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある学園の日常生活

### 【著者名】

セラフィム

N5488S

### 【あらすじ】

もし学園都市の能力者や魔術師が同じ学校にいたら、といつ妄想のもとに描かれる、ほのぼのストーリー。

上条当麻、御坂美琴、一方通行をはじめとする個性的なキャラ達の、平和な日常が今日も始まる

## 入学案内（前書き）

この小説は、100%作者の妄想で描かれています。キャラ崩壊などかなりあるかもしれません、よかつたらぜひご覧ください。

## 入学案内

とある高校 - 入学案内 -

校訓 「友情 勤勉 努力」

教師

校長：アレイスター＝クロウリー

理事長：エイワス

教頭：後方のアツクア

生徒会顧問：木原数多

生徒指導：後方のアツクア

国語総合教師：ローラ＝スチュアート

数学教師：博士

英語教師：オルソラ＝アクイナス

物理教師：木原数多

化学教師：月詠小萌

社会教師：ビアージオ＝ブゾーニ

体育教師：後方のアツクア、黄泉川愛穂

音楽教師：インデックス

家庭科教師：左方のテツラ

保健教師・保健室：冥土返し

用務員：闇咲逢魔、オリアナ＝トムソン

科学分野講師：芳川桔梗、木山春生  
カウンセラー：前方のヴェント

## 在籍生徒

生徒会	会長：一方通行 副会長：垣根帝督 書記：麦野沈利 雑用：浜面仕上
委員会	風紀委員 委員長：固法美偉 初春飾利
整備委員	白井黒子
委員長：湾内絹保	泡浮万彬
応援団	1年生
団長：削板軍霸	担任：黄泉川愛穂
上条当麻	学級委員：初春飾利
浜面仕上	佐天涙子
	白井黒子
	スタイル＝マグヌス

土御門舞夏

フレメア＝セイヴェルン

御坂妹

絹旗最愛

アンジエレネ

ルチア

アニエーゼ

泡浮万彬

湾内絹保

2年生

Aクラス

担任：木原数多

学級委員：風斬水華

一方通行

垣根帝督

御坂美琴

麦野沈利

上条当麻

結標淡希

浜面仕上

Bクラス

担任：月詠小萌

学級委員：吹寄制理

青髪ピアス

海原光貴

土御門元春

滝壺理后

姫神秋沙

フレンダ＝セイヴェルン

削板軍霸

五和

建富斎字

3年生

担任：ローラ＝スチュアート

学級委員：神裂火織

固法美偉

シェリー＝クロムウェル

騎士団長

アウレオルス＝イザード

番外個体

部活動

剣道部

顧問：後方のアックア

部長：神裂火織

五和

建富斎字

騎士団長

写真部

顧問：オリアナ＝トムソン

部長：海原光貴

2 - A 某生徒からの苦情の申し立てにより、廃部審議中

弓道部

顧問：闇咲逢魔

部員募集中

情報処理部

顧問：木山春生

部長：初春飾利

御坂妹、御坂美琴、番外個体は姉妹という設定

主要キャラがみんな同じ学校だったら、といつも妄想を書いていきます。

ギャグ10割で、シリアルパートを書くつもりはありません。

書き方としては、一つの出来事を1人の視点から書いていくという書き方です。

サブタイトルが変わることに視点も変わるので、ご注意ください。

## 入学案内（後書き）

設定、もとい入学案内でした。

こんなカオスなメンバーの、楽しい楽しい学校生活が始まります。  
この入学案内を見て、面白そうな学校だ、と思つた方は、ぜひご入  
学してください。

卒業まで付き合つていただけると嬉しいです。

## **始業式（前書き）**

新学期が始まり、上条たちは晴れて高校2年生です。

## 始業式

- 始業式 -

4月。

この時期は、よく「始まりの季節」と称される。

特に、学校等ではこの言葉の意味がよく分かるだろ？

3月で学年が終わり、4月から新たな学年が始まる。

新しいスタートの季節だ。

この高校もその例に漏れることなく、新しいスタートを迎えていた。

司会「校長先生の挨拶」

集会の恒例行事、校長先生の挨拶だ。

これは、校長先生の話が異常に長い割に内容がほとんど詰まっているといふのが相場だ。

しかし、この高校は例外である。

アレイスター「今年度も、楽しい楽しいショータイムの始まりだ」

校長先生の挨拶、所要時間7秒。

非常に思わずぶりな言葉だが、ただの挨拶である。

特に意味はない。

そういう人物なのだ、この学校の校長は。

#### 司会「生徒会長の挨拶」

その言葉を受けて、ステージの袖からやる気のなさそうな生徒が出てきた。

その生徒の髪は雪のようご白く、肌も同じく白い。

それゆえに、彼の特徴的な赤い瞳が映える。

儀式だから制服もしつかり着ており、なかなかの美男子であると言える。

ステージに立ち、軽く礼をすると、彼は口を開いた。

一方通行「どうも、生徒会長の一方通行です」

一方通行「え？と・・・まあ、その、勉強頑張ってください。以上  
オ」

今まで、これほど棒読みで適当な挨拶をする生徒会長がいただろうか。

清々しいほど適當な挨拶を繰り広げた生徒会長は、ステージの袖へと消えていった。

いひつて、始業式は閉式する。

いよいよ、それぞれにとつての新学期がスタートする。

## **始業式（後書き）**

校長も生徒会長も適当な学校です。  
これから、どんな生活が始まるんでしょうか。

## クラス分け（前書き）

さて、クラス分けです。  
一体、どのようなクラスができるのでしょうか。  
え？入学案内に書いてあった？  
なんのこじやら

## クラス分け

- クラス分け（上条当麻） -

わたくし」と上条当麻は、この高校の2年生である。

頭が悪いから進級できるかどうか心配だつたわけだが、なんとか単位は取れていた。

とこつわけで、クラス分けの結果、2年A組のことだった。のだが・・・

美琴「あれ、アンタも同じクラスだつたんだ」

上条「げつ、ビリビリ・・・」

ビリビリ」と、御坂美琴も同じクラスだつたらしい。

なんといふか・・・

上条「・・・不幸だー」

美琴「アンタ、そんなに死にたいわけ？」

なんか御坂さんがビリビリ言い始めましたよ。

何コレ怖い。

と、とりあえず右手を構えて防御態勢をとるつとじてると、後ろから声が聞こえた。

風斬「席についてくださいーー」

おおー天からの救いーー！

たつたいま俺にとつての救世主と化したのは、このクラスの学級委員である風斬氷華だ。

落ちついてるし頭もいいし、学級委員には適任だと思つ。

美琴「チツ・・・あとで覚えてなさいよー。」

・・・うん、どつかの放電ちゃんに比べれば、よっぽど適任だ。

そんなわけで席につく。

今年の担任は一体誰なんだろう。

そんな心の声に応えるかのように、教室の扉が開いた。

それと同時に、一人の生徒も立ち上がった。

あれは・・・一方通行だ。

急にどうしたんだろうか。

そう疑問に思つていた俺だが、その後の一方通行の言葉を聞いて、疑問はさらに深まる。

一方通行「木イイイ原くウウウウウウンー!?

クラス中がきょとんとする。

もちろん、俺もきょとんとしている。

そんな中、教師と思しき人物がめんどくさそうに口を開いた。

木原「うるせえぞクソガキ、とつとと席につけ」

それにもしても、あの先生と一方通行、何か関係があるんだろうか。

一方通行「ンだア? その思わせぶりな登場はアー!?

あの口のきき方からして、知り合い以上であることは間違いない。

木原「もう一度だけ言つやー。席につけー」

もしかして、一方通行の父親だつたり?

一方通行「ふつざけンじやねエゼー!?

いや、でも、名字が・・・あれ? 一方通行の本名ってなんだ?

木原「うるせえつづつてんだよおー!」 ドカツ!

1年も一緒に勉強してるのに、気にしたこともなかつた・・・

一方通行「ぐはアー!」 バタツ!

・・・考え方をしてるついに、気が付けば一方通行が床に沈んでる。

何かあつたのか？

しかし、意にも介さない様子で教師は話し始めた。

木原「そんなわけで、このクラスの担任になつた木原数多だ」

木原「言つこと聞かねえクソガキは容赦なく指導するから、覚悟しろよー」

改めて、TKO状態の一方通行に目線を移す。

・・・この先生には絶対逆らわない、と心に誓つた瞬間だった。

## クラス分け（後書き）

なかなか面白そうなクラスだと思いませんか？  
あ、そうそう、感想はバンバン書いてくれると嬉しいです。

## 休み時間（前書き）

なんてことではない休み時間の風景です。

## 休み時間

- 休み時間（一方通行） -

あの野郎オ・・・この学校に赴任して、いきなり俺のクラスの担任とは・・・

何がある。絶対に、何か仕組んでやがる。

垣根「おーおー、いい殴られっぴりだったなあ、一方通行（笑）」

垣根か。こいつと同じクラスとは、つざつてH。

一方通行「ただいまメルヘンワールドとの交信は許可をされておりませエン」

一方通行「関東総合通信局に許可申請をしてから、もう一度お試しください」

垣根「謝るから、そんな冷たくしないでくれ・・・泣けてくる

「この奴が生徒会副会長とは、世も末だなア。

上条「一方通行！」

あア？三下も同じだったのか・・・まあ、別にいい。

一方通行「なんだア？」

垣根「ちょ、俺のときと反応が全然違う（泣）」

ホントにうるせー野郎だ。

上条「さつき殴られたみたいだつたけど、大丈夫か？」

一方通行「あ、あア、心配すンな」

上条「そつか。ならよかつた」

なンか、ホツとしたような笑顔してやがる。

真っ先に心配してくれるたア、垣根とは大違ひだな。

一方通行

上条 ーん?なんか言つたか?」

# 一方通行 いせき このちの話だ

垣根一  
うね  
照れてんのかよ一方通行  
キモいWW

一方通行

垣根「悪かった。マジで悪かったから、無言でチヨーカーのスイッチを入れるのはやめてくれ」

一方通行「次ふざけたことぬかしたら、垣ノ根にすゾぞ」

！――！」 ギュイーン――！

大声と共にビームが飛んできやがった。

当然反射できるわけだが、一体何考えてやがんだア？

一方通行「なンだ、むぎのんか」 キイン

麦野「誰がむぎのんだ！誰が！」

一方通行「おまえだよ」

上条「おまえだな」

垣根「おまえだろ」

・・・なンか、俺達3人つてチームワーク抜群じゃねエか？

麦野「・・・おまえら3人、ぶ・ち・こ・ろ・し・か・く・て・い・  
ね」

いちいち区切るなよ。

読みづれ。○

一方通行「ベクトル変換できますけどオ」

垣根「未元物質作れますけど」

上条「能力打ち消せますけど」

麦野「……勝てる気がしない」〇一二

・・・なンか、俺達3人つて最強じゃねエ？

一方通行「くだらね喧嘩うつてねエで、とつとと席つけ」

麦野「覚えてろよ・・・」

一方通行「なンか言ったかア？」ピッ。キューン・・・

麦野「何も言ひてしませんじめんなセイ」ガクブル

はア・・・俺つて、こソなソでいいのかア？

## 休み時間（後書き）

いや～、実にほのぼのした休み時間ですね。  
なんていうか・・ある意味楽しそうです。

## 放課後（前書き）

学生といえば、放課後からが本番と言つても過言ではありません。  
なんの本番かつて？  
知りませんよ、そんなこと。

## 放課後

- 放課後（垣根帝督） -

上条「おーい、帰りにゲーセンにでも寄つていかないか？」

帰りの会が終わり、席を立ちあがつた俺は背後から唐突に話しかけられた。

後ろを向くと、シンシン頭の同級生が立っている。

上条当麻。

何故か意氣投合して、今では俺の親友の一人だ。

垣根「んじや、一方通行も誘うか

そう言つて俺は一方通行の方を向き・・・

一方通行「・・・ジー

真紅の瞳と目が合つた。

な、なんでこっち睨んでんだよ。

なんか身の危険を感じるじゃねえか。

垣根「あ、一方通行、おまえもゲーセン行くか？」

俺と上条の親友である一方通行が、一瞬だけ嬉しそうな表情をしたのを俺は見逃さなかつた。

一方通行「しようがねHな。付き合つてやらア

垣根」・・・シンデレガ「ボソッ

一方通行」・・・「ドカッ

俺は思わず腹を抱えてうずくまる。

今のがベクトルパンチの威力は、マジで洒落にならねえ・・・

この野郎・・・

一方通行「涙田でこっち見ンな。気持ち悪い

そしてこの言われようである。

冗談抜きにイジメじゃないだろ?か。

上条「ハハハ。ほら、2人とも、そろそろ行くぞー」

上条に促され、教室を後にする。

どうでもいいけど、校内一のシンデレガ有名な御坂が物陰から見てるが、気付いているんだろうか。

上条「ふんふふーん(汗)

あ、気付いてるな。

めっちゃ汗かいてるし。

氣を紛らわすために鼻歌まで歌つてゐるし。

まあ、親友の命に關わりそุดからスルーしておくれとこいつ、ウン。

ちなみにその数分後に上条が電撃と共に目の前から消え去り、俺たちは2人でゲーセンに行くことになるのだが、それはまた別の話だ。

・・・電撃がちよつと当たった。

痛かった（泣）

G a m e c e n t e r

一方「覚悟はできてんだろうなア、メルヘンくウン？」

垣根「そっちこそ、ビビってんじやねえのか？ロリコン野郎

「一方「おもしれエ！」この俺を挑発するとはなア。爆笑必至の死体にしてやンよ、三下ア！－！」

垣根「てめえこそ、愉快な死体になり果てやがれ 一方通行！－！」

その刹那、2人は同時に動き始めた。

白髪の少年は首筋のチョーカーのスイッチを入れ、茶髪の少年は純

白の翼を広げる。

この2人は、それぞれ軍隊を楽に壊滅させられるほどの能力を有している。

その2人が、互いの能力を開放したのだ。

これはただごとではない。

もはや、戦争と言つても過言ではないだろう。

・・・ここが、ゲームセンターでなければ。

垣根「どうした一方通行！まだパックの残像が見えてるぜーーー？」

一方「てめエこそ、ゴール付近の未元物質によるシールドが弱いん  
じゃねエかアーーー！」

彼らが何をやつているのかといつと・・・

見物人A「お、おい、さつきから白髪が打つてるパックが全然視認  
できねえぞ・・・」

見物人B「見ろよ。茶髪の方なんて、翼でパックを打ち返してるぜ  
・・・」

見物人C「これはホントにホッケーなのか・・・？」

そう、これはゲームセンターでおなじみのエアホッケーである。

もつとも、摩擦でパックが溶け始めるような状況でホッケーと呼べるのかは疑問だが。

一方「チツ、このままじや埒があかねエ・・・」

垣根「なんとか、決定打をうたなれば・・・」

その時、2人はそれぞれの必殺技を思いついた。

しかし、アクションにでたのは一方通行の方だった。

一方通行は地球の自転エネルギーを使い、パックを弾き飛ばす。

さすがの垣根帝督もこれを防いでる暇はなかつた。

垣根「反応だらけの状態が続いている…」

ゴールを軽く突き抜けたパックは、ギリギリで回避運動をした垣根の頭上を猛スピードで飛んでいく。

その後のゲームセンターは、さながら終戦直後の戦場のようだつた。

「いやあでしておいて、学校に呼び出しえれないはずもなく……」

アツクア「貴様らには罷を『』えるのである」

垣根、一方「「と、言いますと・・・?」

アツクア「垣根帝督は学校中の掃除、一方通行はグラウンド30周である」

一方（なんだ、その程度か・・・）

垣根（そのくらいなら、未元物質を使えばすぐに・・・）

アツクア「もちろん、能力を使用することは許さん」

一方「ハーフオーバー」などと並んで、アーチ型の「アーチ

翌日、グラウンドの中央と掃除用具入れの前で倒れている生徒が発見されたらしい。

生徒指導のアツクア先生曰く、

「2人ともこつそり能力を使っていたので、ぶん殴つたらピクリとも動かなくなつたのである」「

ବେଳାଦ୍ଵାରା

これ以降、「アツクア先生最凶伝説」が出来上がつたらしいが、アツクア先生は知る由もない。

## 放課後（後書き）

ほら、やつぱり放課後からが本番なんですよ。  
といつわけで、感想書いてくれると嬉しいんだよ！

## 学園祭・記録（前書き）

高校といえば、やっぱり学園祭です！  
いや～、青春ですね～。  
え、授業？何ソレ、美味しいの？

## 学園祭 - 討論 -

学園祭 - 討論 - (上条当麻)

浜面「おーい上条、今日の1時間目ってなんだつけ?」

教室に入るなり俺に声をかけたのは、俺の友人、浜面仕上だ。

上条「たしか、LHRじゃなかつたっけか?」

浜面「なにい!?」On the Home Roomだとあー。?

上条「・・・無駄に発音上手いな、おまえ」

彼は、一方通行や御坂など濃い友人の多い俺にとつて、数少ない普通の友人だ。

強いて言ひなら・・・

麦野「はーまづらあ、紅茶買つてくくれない?」

浜面「また雑用かよーーー!」

クラスメイトの麦野沈利に雑用係として扱われている。

1年生の頃からこの調子で、学校一主従関係がはつきりしたコンビだ。

浜面「上条あ、どうにかしてくれよお」

上条「いいじゃねえか。愛されてる証拠だぞ？」

浜面「ビニがだよー！」

上条「ホント、おまえは鈍感だなあ～」

浜面「…………おまえにだけは言われたくない」

なんか、極悪非道な人間に「悪さすんなよ」とて言われたー、みた  
いな顔してらつしゃいますよー？」

なんで！？

俺は恋愛フラグには敏感な男だぞ！？

上条「って、なんで結標まで哀れみの田でじつけを見るのはー？」

「世も末だ」みたいな顔でじかりを見つめてこるのは、結標淡希。

・・・ショタコンだ。

結標「ショタコンじゃないわよー！」

上条「なんで地の文がわかるんだよーー！」

じつって、結標とのトーグバトルが開戦した。

予想以上に白熱し、もはや結標の言葉しか耳に入らない。

始業のチャイムすらも・・・

木原「いつまでしゃべってやがんだ！」のスクラップ野郎ーー「ドカッ！」

上条「ぐはあー！？」

気がつくと、目の前にはいつも白衣を身にまとった我らが担任、木原先生が立っていた。

俺の鳩尾に拳をたたきこんだ状態で。

木原「とつとと席につきやがれ、廃人が」

粉々に砕け散りそうになる自分の心を必死に抑えて、俺は席につく。

斜め前の席からは、結標が一ヤニヤしながらこぢらを見つめている。

あの野郎・・・

木原「そんなわけで、もうすぐ学園祭だ。我がクラスも、クラス展の内容を決めなきゃならん」

木原「・・・まあ、仕切るのはめんどくせえから、適当に話し合つて決めやがれ」

すると、木原先生は椅子に座るなり夢の世界へトリップしてしまつた。

なんとも自由奔放な先生だ。

それにもしても、学園祭の存在をすっかり忘れていた。

この学校の学園祭は特殊なスタイルで、1日目に生徒の展示、2日目は教師による展示だ。

生徒の展示もおもしろいが、それ以上に教師による展示はとても見応えがある。

まあ、危険なものもあつたりするが。

昨年は、家庭科のテッラ先生による「お料理教室」では、調子に乗ったテッラ先生が小麦粉をビュンビュン飛ばしまくって、何人か怪我人が出た。

「せっかくの学園祭なのに、仕事を増やさないでほしいねえ」とは、冥土返し先生の言葉だ。

それはさておき、まずはクラス展を決めなければならぬ。

結標「仮面ライダーの着ぐるみショーなんてどうかしら」

つと、さつそく結標がなんか提案した……

一方「小さな男の子曰当てじやねエか、ショタコンクソ女がア」

直後に一方通行にバツサリ切られていた。

すっかり意氣消沈した結標は机に突つ伏してしまっている。

可哀想・・・じゃないな、ウン。

そこから、討論はどんどん加速していく。

麦野「世界の鮭弁博覧会とか」

垣根でめえは海で鮭と一緒に泳いでろ

美琴「ゲコ太」

上条「分かつたからおとなしくしてよくな?」

一方、それより、プリキュア・・・

上条・垣根一 黙つてゐる、第一位

一方・・・すみませんでした

浜面一八

九  
テツ

藏經一函

海面へえ、たれりあつて、シテ?」

ハタシ

浜面仕上がログアウトしました

今は滝壺理<sup>ムカシ</sup>。

B組の生徒で、浜面と付き合つてゐるが、詳しいことは知らない。

まあ、そんなことまだないでいい。

上条「残つてるのは俺と垣根か・・・」

垣根「いや待て、まだラストホールプが残つてる

上条「そつか！風斬！おまえの意見は？」

俺たちは最後の希望を、彼女に託す。

彼女なら・・・学級委員で優等生な彼女なら・・・

すると、風斬は俺たちの期待に応えるよつて口を開いた。

風斬「なんでもいいですよ^\_^」

上条・垣根「（。 。 ）」「

すっかりやる気を失つた俺たちは、無難にお化け屋敷に決めた。

みんなで様々な能力を使用して怖がらせるといつ、ちょっと変わったお化け屋敷だ。

そうと決まれば、あとは準備だ。

上条「よーし、いつちょやつてやるか!」

垣根「おつい見たこともないよつなお化け屋敷にしてやるわせー!」

廃人だけの教室で、俺たちは拳を掲げる。

必ず成功させるという、強い意志をこめて!

・・・ところで、浜面が帰つてこないけど大丈夫かな・・・?

**学園祭 - 討論 - (後書き)**

お化け屋敷というチョイスは、あまり面白くないですよね。  
書きながら思いました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5488s/>

---

とある学園の日常生活

2011年10月9日00時07分発行